

新入生のボランティア意識とセンターの課題

－「2017年度 新入生ボランティア活動アンケート」

1. 調査の概要と結論

ボランティアセンターでは、2000年度から、新入生のボランティアへの意識などを把握するためのアンケートを毎年4月の学科ガイダンス時に実施している。2017年度調査では、入学者総数3,205人の88.9%にあたる2,849人から回答を得た。前年度の回答率に比してやや下がったとはいえ、十分な回収率といってよいだろう。ただし、たとえば回答者の性別を見ると女性65.6%、男性34.4%と、女性の回答割合が高く、他方で女性の方がボランティアを経験している割合などが高いので、本調査の結果がややボランティアへの関心を高めを示す傾向があると考えられる。

例年、この調査における新入生のボランティアへの関心は全体に高いのだが、本年度は、近年に比べても高くなっている。たとえば、大学時代にボランティア活動を通して学ぶことに「大いに興味がある」(20.4%)「興味がある」(53.0%)と回答した学生の割合を足すと73.4%になる。この合計した数字は、昨年度、一昨年度いずれも64.5%だった。同じく「大学時代にボランティア活動に参加したい」と思う学生数も、2,176人(76.4%)と多い(前年度は2,158人・75.2%)。

本学でのボランティア経験への導入的な機能を果たしている「1 Day for Others」への参加希望者は、「参加する」291人(10.2%)、「できれば参加してみたい」1,132人(39.7%)、「情報を確認してから参加を考える」1,197人(42.0%)となっている。質問文が昨年度から少し変わっているため単純には比べられないが、参加意識が高まっている傾向があるともいえる。

昨年度プログラムが開始しアンケート項目にも加えられた「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム」への参加希望については、「参加する」と答えた学生が129人(4.5%)と、前年度69人(2.4%)からは多少増えている。「できれば参加してみたい」は898人(31.5%)、「内容を確認してから参加を考える」は1,523人(53.5%)と、大半の学生が前向きではあるが必ずしも積極的ではない。質問文が少し異なるため単純には比較できないが、だいたいのところは昨年度と同様である。

上記の2問について「情報(あるいは内容)を確認してから考える」という割合が高いこととの関連で気になることとして、「明治学院大学のボランティア活動について知っていましたか」という質問への答えは、「はい」51.1%(1,456人)、「いいえ」48.8%(1,390人)とほぼ拮抗しており、かつ、昨年度には54.4%が肯定だったのに比べると、認知度が減っている。とくに「1 Day for Others」や「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケイト・プログラム」は1年生からの参加を念頭に企画され、また、その後の多様な学習・研究やボランティア活動などに展開していくことが期待されている。参加を促進しようとするならば、入学前から入学直後の時期にかけて、これらの活動の内容や成果を含めた、より効果的な広報に努めることも考えられてよいだろう。

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験

大学入学前のボランティア活動への参加については、参加経験のある人が45.4%(1,294人)、ない人が54.6%(1,555人)と、わずかに「ない」が上回っている。この10年の経年変化をみると、2009年から12年まで減少傾向にあったものが、2013年から増加に転じて2015年には参加ありが44.2%だった。

2016年には40.0%に一度減ったものが元に戻ったといえるだろう。

男女別では、参加経験のある割合が女性 50.3% (939 人)、男性 36.2% (355 人) と、女性の方が明らかに多い。後述のように、このことは今後のボランティア参加への積極性ともかかわる。

活動の内訳をみると、複数回答を含めた延べ回答数を母数として (N=1,754)、「環境」(21.7%)、「社会福祉」(20.5%)、「子ども」(18.9%)、「まちづくり」(11.6%) の順である。順位は年度によって入れ替わるものの、この4分野が多くを占める傾向はこの数年来変わっていない。ちなみに、10%以下の分野には、「ボランティア活動支援」、「国際」、「スポーツ」などがある。

(2) 大学におけるボランティア活動に関する希望

ボランティア活動を通して学ぶことへの興味は、「大いに興味がある」581人(20.4%)、「ある」1,511人(53.0%)、「どちらともいえない」588人(20.6%)、「あまりない」135人(4.7%)、「全くない」24人(0.8%)と、大きく興味ある方に偏っている。ただし、ボランティア活動に関するニュースへの興味になると、「大いに興味がある」305人(10.7%)、「ある」1,328人(46.6%)、「どちらともいえない」959人(33.7%)と、より中間的な回答の割合が増える。

クロス集計を見ると、まず男女差が明確で、女性は「大いに興味ある」459人(24.6%)、「ある」1,049人(56.2%)と8割が興味を示している。男性では、「大いに興味ある」122人(12.4%)、「ある」462人(47.1%)と、その合計が6割程度である。また、男女ともに入学前にボランティア活動を経験している方が、大学でのボランティアへの期待・関心が高い。たとえば、男性のうち、ボランティア活動の参加経験がある人だけをみると「大いに興味ある」62人(17.5%)、「ある」197人(56.5%)と、あわせて7割を超える人が興味を示す。

参加したい理由は、第一位が「新しい出会いや経験を得たい」(56.3%)で、唯一「参加したい」人の過半数が選択している。以下、「ものの見方や考え方を広めたい」(43.2%)、「知識を広げたい」(39.7%)、「地域や人のために役立ちたい」(36.2%)、「授業では得られないものを学びたい」(35.7%)などと続く。新たなものへの希望という傾向も従来から変わっていない。

(3) 関心分野

多くの新生が複数の分野の活動に関心を示している。「どのようなボランティア活動に関心があるか」複数回答で質問した延べ回答数は、分野数で11,152となった(「異文化交流」と「国際協力」の両方に関心があると答えても「国際分野」一つとして数えている)。全有効回答者数で平均したとしても一人につき3~4分野が挙げられた計算になる。関心のあるボランティア活動分野は、上位から順に「国際」(14.9%)、「まちづくり」(11.4%)、「環境」(11.1%)、「子ども」(10.9%)、「文化」(10.7%)、「スポーツ」(8.3%)、「被災地支援」(7.8%)、「社会起業・社会貢献」(7.8%)、「社会福祉」(6.4%)、「心理」(5.9%)、「ボランティア活動支援」(4.8%)と続く(数字は延べ回答数を母数とする、N=11,152)。各分野の内訳まで含めて、現在、ボランティアセンターがサポートしている活動については、濃淡の差はあるにしても、ほぼすべてに一定の関心が寄せられていることが分かる。

その意味でのマッチングは可能だと思われるが、上記の通り、自分にあったボランティア活動のために積極的に情報などを求めて来る新生は多くない。そこでの情報提供のあり方が問われるだろう。また、ボランティア活動に関する新しい経験や出会いが活動場所や名称によってもたらされるものでないことは当然だが、その活動の内容や、自分自身にとっての意味を理解するためには、活動前後の考察やコミュニケーションも大事になる。たとえば、関心分野の第一位を占めた「国際」分野の活動内容内訳

をみると、「異文化交流」「国際協力」がとくに多く、「翻訳」「通訳」「日本語サポート」「在日外国人支援」などはあまり選択されていない。だが、たとえば「在日外国人支援」と「異文化交流」とが密接につながっていることもいうまでもない。現状では、それに気づくためのちょっとした情報が足りていない可能性がある。さらにいえば、参加後に、異文化および異文化交流の多様性などについて考え、さらに新しい可能性を感じる機会があると、ボランティア活動と新入生の生活・学習との間がより密接になるのではないか。

ちなみに、「ボランティア活動に参加したくない」理由は、「時間がない」(44.8%)が「関心がない」(25.7%)以下を大きく引き離れた第一位であり、この傾向はこの数年拡大しているように見える。「時間がない」は、ボランティア活動に関心をもつ学生にも共通することだろう。

(4) ボランティア活動の認知度

概要でも述べた通り、「明治学院大学のボランティア活動について知っていたか」という問いへの肯定は51.1% (1,456人)、否定は48.8% (1,390人)とほぼ拮抗している。2015年度まで「知っていた」割合が上昇し続けていたが、2016年度に続いて減少傾向を示したことになる。特別入試に比べて一般入試による入学者が増えれば入学直前まで受験勉強に忙しかった新入生がそれだけ増えるので、わずかな変化を気にする意味は少ないが、それだけ、新学期開始後の学内における情報提供が必要にはなる。

ボランティア活動への情報源は、「大学ホームページ」が62.5%で、以下、「オープンキャンパス」31.7%、「先輩から」10.0%と、その差が大きい。周知をはかるには大学全体の広報活動との連携が効果的になるだろう。

(5) 「1 Day for Others」(1日社会貢献プログラム)の参加希望

「1 Day for Others」に「参加してみようと思うか」という質問への回答は、「参加する」291人(10.2%)、「できれば参加してみたい」1,132人(39.7%)、「情報を確認してから参加を考える」1,197人(42.0%)、「参加しない」167人(5.9%)、未回答62人(2.2%)であった。これまでと同様、積極的ではないが前向きな姿勢がうかがえる。選択肢の文言が前年度から少し変わったが、同じ文言の「参加する」にかぎってみると前年度の189人(6.6%)から増えている。

(6) 「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」への参加希望

質問文は、「昨年度より明治学院大学では、大学の授業とボランティア実践を結びつけて、問題発見・開発力やコミュニケーション力を高める「明治学院大学教育連携・ボランティア・サティフィケート・プログラム」(3年で修了)を実施しています。このプログラムに参加しようと思いますか。」というものである。昨年からは開始したプログラムのため数年間は質問文の文面が少しずつ変化すると思われ、また、そのワーディングが回答に与える影響もあり得るので、全文を紹介しておく。

前年度は、「参加する」69人(2.4%)、「可能なら参加してみたい」687人(23.9%)、「情報を確認してから参加を考える」1,803人(62.8%)、「参加しない」269人(9.4%)であった。

今年度は、「参加する」129人(4.5%)、「できれば参加してみたい」898人(31.5%)、「内容を確認してから参加を考える」1,523人(53.5%)、「参加しない」243人(8.5%)となっている。

(ボランティアセンター長補佐 藤川賢)